

二風谷イタの概要

二風谷イタとは

沙流川流域に古くから伝わり、現在は主として平取町二風谷で伝統的技法が継承されている、木製の浅く平たい形状のお盆のことで、地域の特徴である、モレウノカ・アイウシノカ・シクノカなどのアイヌ文様が木彫により施されている。



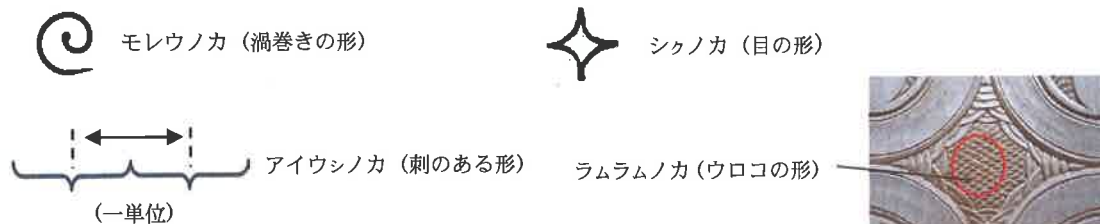
工芸品の特徴

日常生活で長く使用できる実用品でありながら、モレウノカ（うずまき・形を模したものの）、アイウシノカ（刺がある・形を模したものの）、シクノカ（目・形を模したものの）などのアイヌ文様、ラムラムノカ（ウロコ・形を模したものの）と呼ばれるウロコ彫りが施されている、美しさも兼ね備えた工芸品と言える。

アイヌ文様の主な構成要素と二風谷地域の特徴

アイヌ文様の構成要素は以下のようなデザインを有しており、それらの組み合わせによって、作り手によりイタ全体のアイヌ文様が形成される。

なかでもウロコ彫りは、二風谷イタには必ず見られるもので、その技術は現在も継承されている。ウロコ彫りを一つの作品に多く使用するの、この地域の特徴でもある。なお、現在、道内の他地域でウロコ彫りが入ったものも見られるが、二風谷ではウロコ彫りを必ず木目を縦方向にして彫っている。ウロコ彫りは地域に伝わる地模様的一种で、文様と文様の間のスペースをデザインとして埋めるラムラムノカ（ウロコの形）を巧みに使用しているのも地域の特徴と言える



手工業性と主な工程

二風谷イタの製造工程は、型取り、文様彫り、ウロコ彫りなど多岐にわたっており、それぞれの工程において手作業となっている。

